

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あおいの理念及び理念の伴う基本方針を1F・2Fの玄関及び事務所に掲げている。		昨年のサービス評価の際、あおいの理念が長すぎるという指摘を受け短くする。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼（毎朝）で理念と基本方針を職員全員で唱和し、実践出来る様に努める。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議でご家族や地域の方々のご理解を頂ける様、説明及び質問を受けて理念の推進を図る。		ご家族及び来客の方々の方目につく場所に設置する事によって、あおいをより理解して頂くことに繋がってほしいと考える。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開設以来、満4年が経過して近隣所との付き合いも以前に比べるとスムーズになって来ている。		今後、益々より良い関係の維持に努めて行きたいと考える。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の掃除・総会・運動会には必ず参加し、地域とのより良い友好関係を保つことに努める。		地域の大きな行事にもっと参加し、より深い相互理解を図って行きたいと考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	開設当初から私共のホームでは花作り・無農薬の野菜作りに取り組んでいる。		以前は参加出来た入居者の方々も最近では重度化し、参加不可能な方も増えてきているが、出来得る範囲で参加出来たらと考える。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年も自己評価及び外部評価は職員全員参加で取り組むこととする。		下記の4つの担当に分かれて取り組んだ。 施設長 介護職 看護職 給食（管理栄養士）室の管理者
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度地域の民生委員・地域包括支援センター・訪問看護ステーションの理事長・有職者（九州大学名誉教授）家族の代表者2名の出席を得て、活発な意見を交換し、相互関係を深める良い機会であると思う。		当ホームから介護職・看護職より入居者の現状を会議の中で発表する事に依って、あおいをより理解して頂けるのではないかと考える。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを度々訪れ、あおいの実態を聞いて頂く事も多く、反対に包括の方から訪問して頂く等、何でも話し合える連携を築いて行きたいと考える。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、グループホーム協議会及び、研修等で地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を得る。学んだ成果を研修報告として職員会議で伝える様にしている。		管理者や一部の職員だけでなく、全職員が権利擁護に関する制度を勉強する機会を得たいと考える。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の（不穏時）職員への暴力は見られるが、反対は絶対にあってはならないと考える。		常にスタッフは虐待をしない、行ってはいけないと言う意識を持ち続けていく努力を惜しまない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は施設長・管理者・介護者・看護職・事務職と入念な説明等に対応している。解約時のご家族の決断をしっかりとって、納得して頂いた上でやっている。</p>		<p>入居の際、十分な聞き取りが出来たと思っても入居後、不十分だったと気付く事も多々あり、より深い面接・聞き取りが必要であると考え。入居者の転居の際は、当ホームが次の入居先を探すことを前提とする。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>直接、意見・不満・苦情を訴える事が出来る入居者は少ないが、職員一同可能な限り意見を取り入れる努力を惜しまない様に心掛ける。口に出して言えない入居者には表情等で見極める努力をする。</p>		<p>日常業務に追われる毎日であるが、出来得る限り入居者の方の訴え、意見をしっかりと見極めること。難しいことではあるが、それを克服する事がより良い介護に繋がると考える。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月毎に出すホームの通信に、入居者の方のホームでの様子・健康状態・又は担当介護士の交代のお知らせ等を掲載している。他に請求書発送時に小口預かり金の現在高もお知らせしている。</p>		<p>日々の体調変化はご家族の面会時に担当職員が直接お話ししたり、電話で報告する様にしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談員（元民生委員長、深町輝子氏）を設けている。又は、家族代表（現在2名）に相談される事もある。</p>		<p>ご家族が何でも言える雰囲気を作って行くことが大切だと考えるが、現実には難しい様である。努力を続けたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議・運営推進会議・勉強会等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。意見をまとめて記録し、より良い運営を推進する機会であると考え。</p>		<p>管理者が職員一人一人の意見を聴き、それを運営者と共に検討しより良い運営に生かして行きたいと考える。（例 休憩所の設置 H21.6月頃に、庭に別棟の中に完成する。）</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の病気や入院時には他の職員が変わる等の対応で知調整を行い、又職員の家族の病気入院等の場合も出来る限り対応している。</p>		<p>利用者の受診頻度が多く、ご家族の付添いが困難な時は、他の利用者へのサービス及び安全管理が低下しない様に調整を行う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職を防ぐことが大切であると常々考えるが、現実には色々難しく最小限度に抑える努力に留まる。</p>		<p>あおいが魅力ある職場である事が離職を減らす何よりの方法だと考えるので、その方向で努力する。</p> <p>* 何でも言い易い環境</p> <p>* 休日をしっかりと採れる</p> <p>* 職員の休憩の確保</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員採用にあたっては性別や年齢等で判断していない。等ホームでは60歳以上の職員も多く、その経験・能力を存分に生かして業務に当たって貰っている。</p>		<p>畑や野菜作りが得意な能力をホームの畑で無農薬の野菜・花作りに精を出して貰っている。天気の良い時は入居者の参加して皆で楽しんでいる。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>入居者のファイル等は人目に触れないキヤビネットに保管し(個人情報保護法により)6ヶ月に一度のあおいだよりの写真掲載時は、ご家族の許可を頂く様になっている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>あおいの職員は比較的年配者が多いが、市・県・GH協議会等の研修及び勉強会は若い職員の出席を促し、出来るだけ勉強の機会を作って行きたいと思う。</p>		<p>日常の業務に追われ、職員育成の機会が充分でないと思われるので出来る限り多くの時間を作って行きたいと考える。現在は毎月の職員会議の前に講師を招き、議題を設け勉強会を行っている。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設の管理者及び職員との交流を持ち、情報交換する事は当ホームのサービス向上に繋がると考える。</p>		<p>今後一層の交流を計りたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレス軽減の第一の方法として、長時間認知症の入居者に対応はストレスに連がるので休憩場所ですっきり休みを取ることは大切な事と考える。</p>		<p>従って、今般ホームの庭に職員が足を伸ばして休みが取れる場所を作っている。(H21.6月完成)又は、食事会・クリスマス会・忘年会・新年会等の時間も作って行けたらと考える。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個々の努力や実績を認め、正しい評価をする事が入居者のより良い介護に繋がって行くと考ええる。		より良いケアが出来ている職員には、給与・賞与等で考慮する様にし、頑張っている職員が落胆しない様な、働き甲斐のある給与体制を整えて行く様しっかり考慮したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用までにいつでも気軽に相談して頂ける様な働きかけを心掛け、本人との信頼関係を第一に考え、求められている事を理解し安心される様に心掛ける。		受けた情報をスタッフ間で共有し、入所後のサービスに反映させている。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族に気軽に不安や困っている事を聞かせて頂ける様に、職員からの声掛け・近況報告を心掛け、ケアプランにも生かしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況・状態をしっかり傾聴すると共に、当ホームの特徴を伝え本人と家族の希望を聞き、情報として他のサービス利用の可能性も伝えている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接のデイサービスとの交流により、ホームに馴染まれ入所される方もある。まずは本人の生活歴・個性等をしっかり把握し、家族・本人の意向を考慮しサービスを開始し、無理なく他の利用者との交流を支援し雰囲気に慣れて頂いている。		体験入所も取り入れている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の状況・情報を把握し理解し、日常生活で出来る事は見守り、声掛けと少しの介助で、自分で出来るという喜びを味わってもらっている。他の入居者やスタッフとのコミュニケーションで知る事や学ぶ事が多々あり、支え合う関係が出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事（新年会・お茶会・雛祭り・花見・夏まつり・長寿の祝い・餅つき会・クリスマス会）に家族の参加を呼びかけている。又、各々個人の誕生日会又は、家族の記念日等に来訪され、お互いに分かち合い支え合っていく関係を作っている。		行事等により沢山の家族・知人の方々に参加して頂き協力をお願いして行きたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族・本人の希望を取り入れ、外食・ドライブ・お墓参り・散髪等家族の意向を理解し支援して行く。		本人の希望が出来るだけ叶えられる様に家族への発信を密にして行く様にする。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に積極的には働き掛けていないが、来訪者は歓迎している。		気兼ねなく訪問してもらえる様に気配りをして行きたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性を考慮し、居室変更・食時の座席の移動を行っている。本人の能力に合わせた家族参加を呼びかけ、利用者同士のコミュニケーションがとれる様に配慮する。		利用者は孤立しがちなので、各々の相性を見極めながら対話・小さな動きの変化にも気配り見守りを行って行きたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームを退所されても又遊びに来て下さったり、入院等の方は状況を教えて下さる事もあり、こちらから伺う事もある。		退所されても見舞に伺う等、出来るだけ関係を保つ様に心掛けている。退居者・死去の際は、当ホームの職員・代表者が、通夜・葬儀に伺っている。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の今までの生活状況を把握しながら本人の希望・意向が出来るだけ叶えられるような支援が出来ればと考える。		もっと外出やレクリエーションを増やし、一人一人の希望を優先させ尊重して行く様にする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人これまで培われた事を把握し、日々の生活に活かしている。		一人一人異なる生活スタイルを把握し、更に引き出していける様に今後もご家族との情報交換・職員間の連携を図る。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の一日の記録（過ごし方や心身状態）毎日の検温・週一回の血圧チェック・月一回の体重測定・又残存機能の活用を図る為、個々のADLの観察・見守りを行い必要に応じて記録をする。		毎日の生活の中で、個々の趣味や希望を聞き取り、自立支援に努めると共に、日々安定した生活が営める様に支援する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日朝礼のカンファレンスで現在の問題点を話し合い、その結果を家族に相談し、意見を聞き介護計画作成にあたる。		朝礼時のカンファレンスとは別に個別の課題・ケアの在り方について話し合う時間を設ける。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送り後のミニカンファレンスや問題発生時はその都度本人の意向を聞き、家族へ連絡し話し合いを密にし、介護計画の見直しを行っている。		介護計画期間・変化時の計画変更に取り組んでいる。更に個々のニーズや状況に応じた計画作成が行える様に連絡や連携を密にしていく。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	問題・異常時・日々の細やかな気づきを記録し、カンファレンスにかけて検討し、介護計画の見直しに活かしている。		職員間の情報共有に努めると共に日常の気付いた事や工夫・ケアの実践記録を漏らす事のない様に取り組む。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	大きな行事はグループホームに併設するデイサービスと一緒にいる。		一緒に行えない行事もあるが、出来るだけ助け合い柔軟な支援が出来たらと考える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームの運営活動には、民生委員・ボランティア・警察・消防・文化教育機関との協力が不可欠である。当ホームでは、前記の機関といつも良い関係を保つ努力をしている。		月に一度、民謡会（先生と他2名来訪）と念に4回ピアノ演奏と声楽の先生の「歌おう会」を催している。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	努めて他のケアマネジャーやサービス事業者との話し合いを持ち、支援の輪を広げていく様に心がけている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は運営推進委員会に必ず出席願ひ、あおいの実状を知って頂き、反対に地域包括支援センターの現在の状況や考え方を教えて頂いている。		あおいを客観的に見て頂く大切な機関であると考えるので今後とも、地域包括支援センターとの交流を密に持ちたいと考える。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向と主治医（内科医）を決定し、他に整形外科・歯科・眼科・耳鼻科・皮膚科の往診を受けている旨を説明し、ご家族に決めて頂いている。当ホームは訪問看護ステーションとの医療連携を結んで24時間体制を執っている。		入居後、殆どのご家族はホームのかかりつけ医に決められるが、中には入居前からのかかりつけ医に引き続きかかれる方もいる。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	昨年より認知症に造詣の深い専門医に巡り合い、現在では往診等で支援を受け、心強い限りである。		他の先生方（歯科・眼科・耳鼻科・皮膚科）も高齢者・認知症を理解の上に対応して頂き、ご家族にも安心して頂いている。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームは3名の看護師が看護にあたり、他に医療連携を結んでいる訪問看護ステーションの理事長に週一回の訪問看護を受けている。		緊急時に24時間何時でも対応して貰えるので、日勤の職員は勿論のこと、夜勤の職員にも心強い味方である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>入院者の日常生活の中で異常を早期発見する為にバイタルチェック等を行い、要観察や見守りを強化する事に努めている。</p> <p>なるべく入院生活という生活環境の変化を避ける様に努めている。</p>
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>事前に家族のアンケートを取り、急変時に救急車による病院搬送を行い、病院で看取るかホームでターミナルの看取りを行うかの方針を伺い情報を共有している。ターミナルの看取りについて、訪問看護ステーションより研修会を開いてもらっている。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>家族がホームでのターミナルケアを決断された時、家族の支援も必要だと考えている。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>利用者が当ホームよりより良い環境（他グループホーム・他施設等）を探して差し上げる支援も行っている。1日の中での様子の観察・声掛けや手を握ったり体に触れる事で安心感を与えられる様にしている。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>研修会や勉強会参加などにより参加資料などをスタッフに開示して情報に努めている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行動・性格等を把握して対応するように努めている。又本人の訴えに傾聴し、不穏にならない様な対応を行っている。		言葉かけを多くし、表情を読みとりながら理解を深め信頼関係を築いていきたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションやゲーム等の参加の声掛けはしても拒否があれば他の方向へ持っていくようにする。		各人苦手な事もあるので、その方にあった方法で楽しんで頂く。(例えば庭歩きなど)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝、起きた時の整容(寝ぐせ等) 食事後の服の汚れに気をつける。		女性の方はたまには口紅等をするだけでも気分が変わると思う。男性の方は常に髭そりやブラッシングをして差し上げたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽を流し、職員が話しかけながら和気あいあいとした雰囲気の中で食事出来る様心がける。		箸が途中で止まってしまう方には声掛けして食が進むよう手助けをする。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	甘いものを好まれる方が多いので少量で甘いものを用意する。時には、手作りおやつを皆で楽しみながら作る。		手作りおやつ回数を増やしていきたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレで排泄できる方は、パットが濡れる前に誘導出来る様になればご本人にとっても快適だと思う。		個別に排泄のパターンが分かる様に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に午後から行ない、2名から4名の利用者を支援している。		入浴の前に声掛けを行ない、拒否された場合は無理強いしないようにしたり、順番を変えたり時間をおいて声掛け等の対応をしている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後やマッサージ後に休んでもらうように支援している。		夜の睡眠に影響がない程度の昼寝をして頂いている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や特技を活かし日々の日課や楽しみごとの支援を行っている。		レクリエーションに誘ったり、体を動かす事で気分転換を図って頂いている。レクリエーションは人によって内容が異なり、その方の出来るようなレクリエーションを支援していきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしてもらっていない。お金はすべてホームで管理している。利用者からは必要な物の申し出があった時、スタッフに依頼したり、家族に発信して対応している。		利用者が買い物希望される時は、職員が同行し家族から預かっている預かり金の中から職員が支払を行っている。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中ホーム内におられる事が多いので出来るだけ散歩等で外出の機会を作っている。		利用者の希望はできる範囲の中で対応していきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常業務に追われ外出の機会が少ないので出来るだけ少しでも外出のチャンスを作りたい。デイサービスとの協力で一緒に外出することもある。		季節や気候に合わせて普段行けない場所への外出を対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には電話をする事を家族に了解して頂き、電話で話され安心される。ホームの職員が家族になり、入居者との会話を電話で話す事もある。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人・友達等が気軽に来てもらえる様な雰囲気心を掛けている。来客時は、お茶・お菓子で穏やかに和やかに話が進む様に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止（転倒やベットからの転落防止）の為見守り強化と学習方法の共有を行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の帰宅願望が強くなり、不穏状態出現時はスタッフ同志声掛けを行い、見守りを強化し玄関のみ簡単な鍵のみを使用している。利用者の居室・玄関に鍵をかけないケアをする事を基本としている。		浴室と玄関は安全性を配慮し鍵をかけている。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの所在確認はしっかり行い把握している。転倒の危険性大の場合は見守り強化を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は一律にしまっているが、手洗い洗剤・消毒剤等、利用者から見て理解できない物は物影に置く。		未使用の物は倉庫に収納している。使用する場合はその都度倉庫から出して使用している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成している。 スタッフ間のチームプレイによりお互いに声をかけ合い、見守りを強化し所在の確認等行い事故防止に努めている。		スタッフ間のチームプレイ及び見守り強化に努めていきたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急隊の指導による講習会参加により訓練を行い、他のスタッフにも伝達している。 訪問看護ステーションとの連携により、急変時や事故発生時には、24時間体制で支援を受けている。		勉強会や講習会の全スタッフの参加の機会を増やしていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居説明時に見守りを行っているにもかかわらず起こり得る事故等についてご家族に説明出来る様にしている。又、レベル低下や体調不良など出現時は面会時や電話等で状況説明その都度事実をお伝えし、対応している。		家族の信頼関係を強めていくことが大切だと考える。受診（緊急は除く）はなるべく家族に付き添いをお願いし、現状状況を把握してもらうようにしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時のバイタルチェックを行い、異変発生時には速やかに看護師・リーダーに報告をする様にしている。 リーダーは申し送りを徹底し、申し送りノートに記入するなどして情報を共有する様にしている。		状態変化時は、主治医に密に報告する事とし、指示を受けることにしている。 訪問看護ステーションにも報告し、特に夜間の対応や支援を受けやすい様に努めている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服変更時はお薬レターの発行をしてもらい、申し送りを徹底している。日常の状態観察を重視し、気になる症状があれば看護師に報告する様にし、看護師より医師に報告する。		内服変更により副作用の出現のおそれがある時は、申し送りノートに記入し情報を共有する様に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・献立時に繊維質の多い食材を用いている。 ・朝食後と間食1日2回乳製品を付けている。 ・飲水量1,000ml(お茶・コーヒー・麦茶・ポカリ)を飲みやすく工夫している。 		定時にトイレ誘導を行い、腹部マッサージをもっと取り入れたい。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医より口腔ケアの講演を行って頂いている。 ・往診時は、指導事項の申し送りの徹底を行っている。 ・毎食後の歯・義歯のブラッシング、就寝前には義歯を預かっている ・用具は週1回消毒している。 ・一人ひとりの能力に合わせ、ブラッシングの不十分な時は介助を行っている 		唾液分泌のチェック・口腔内粘膜の出血や炎症の観察を行う。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事摂取や身体の機能対応食(咀嚼や嚥下機能に合ったもの。主食や副食の形態の対応) ・病態治療食対応(嗜好を考慮し残菜が少なく食べてもらえる様な治療食) ・個人の水分摂取量の毎日の記録(朝食後10時頃・昼食後・3時・夕食後・寝る前) 		身体機能に応じた自助具の活用によって食事の自力維持につなげて行きたい。 低栄養や脱水を防ぐ事はもちろん食の嗜好を理解しつつ、バランスのとれた食事作りをする。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての勉強会を行っている。外部の研修会に参加してスタッフは研修報告を提出し、他の職員に伝える。排泄後・食事前の手洗いの実施。各部屋にビニール手袋を常備し、処置の時に使用する。		薬用石鹸で手洗いを充分に行い、ビニール袋をを常備している。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・保存食の実施(1食品約50g - 15で3日間保存) ・冷凍、冷蔵庫の温度チェック ・まな板、包丁の使い分け(肉、野菜、魚の区別) ・大型冷凍、冷蔵庫設置により食材の安全管理 ・コンベクション使用により食品の中心温度の確認 ・食品納入時のチェック ・なるべく旬の食材の使用 		保存食の実地や食材料の品質温度チェックを密に行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関廻り、庭に沢山の樹木(桜・はなみずき・つつじ)花々(パンジー・ピオラ・ストック等々)を植え、近隣の人々や面会者(ご家族)に楽しんで頂いている。		職員が庭の奥の畑に野菜(無農薬)を作っているので通りがかりの方や面会の方々が立ち寄って下さる。収穫時には入居者と一緒に楽しんだり、ホームの献立にいれる様にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方々に心地よい空間を作って差し上げる事は最も大切な事であると考え、常々スタッフ間で話し合う機会を持つ様に努める。		玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室・トイレは常に清潔に保ち、家で過ごしている様な気分を味わって頂きたいと願う。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の意向で居室で過ごされたり、テレビ前ソファ・テーブルで過ごされている。横に座っている方が決まっていたりと仲良しの関係も出来ている。一人でいる方にはスタッフが声かけし、おしゃべりの輪に入られる様援助している。		1対1の関係ではなく、カラオケ等を使って他の入居者と一緒に楽しめる関係を作っていきたい。又風船投げやラジオ体操等もある。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で心地よく住んで頂くには、今まで使っておられた家具・調度品を配置する事も大切な要素であると考え。		思い出の写真・絵を飾る事も本人が落ち着かれる事に繋がるのではないかと考える。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝は窓を開け、新鮮な空気を入れる様に心掛ける。 (特別寒い日は除き)温度も常に適温を保っている。		居室は個人の体調に合わせて調整している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・ホームに手すりを設置しており、安全に移動する事が出来る。		ホールでの歩行訓練も可能である。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	例 ホームで犬を飼っているが、エサやりを自分の仕事と思う入居者には本人が希望される時はやって貰う様にする。		訴えはすべて受け入れ、混乱しない対応。声掛けを行っている。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日には庭に出て日光浴を行ったり、散歩も常々行う。		6月下旬迄に庭に歩くコース(散歩道)を設置の予定

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

介護の仕事は、多くの仕事の中でも身体的にも精神的にも重労働です。その重労働を強いられている介護者が心身ともに健全でないと入居者に対して良い介護は出来ないと考えます。前記でも問われていますが、職員のストレス軽減の一つとして当ホームでは、足を伸ばしてゆっくり休憩出来る空間の設置に取り組んでいます。又、建物の設置と同時に入居者の方々の脚力低下の防止の一環として、庭に歩く歩道を作っています。(6月末完成予定)